

**食品安全研究会**

**【食品微生物研究部会】**

<p>1, 2 月</p>	<p><b>(1) 芽胞菌研究分科会</b>          1/24 ILSI Japan 会議室（麹町）にて打ち合わせ実施。          現状、試験方法が開示できる場所がないため、開示方法検討中。ILSI Japan のウェブサイトでも可能か？検討中。          また開示できる状態の試験方法文書をまとめなおす作業を実施中。最終確認段階。          海外で試験方法のバリデーションを取る試験系を文書化する作業を実施中。          バリデーション方法の検討にあたり NBRC 川崎先生との相談で、NBRC にて芽胞液を作製して保存、分譲することの可能性があることが分かり、実施方向で相談予定。</p> <p><b>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</b>          ・2020年1月31日 MALDI 分科会の開催（NITE 本所）          NITE 本所にて MALDI 分科会を開催した。ILSI Japan から 10 名、NITE から 8 名参加いただき、これまでの進捗およびこれからの進め方を議論した。菌種同定精度の更なる向上に向けた、バイオメテュー製ソフトウェアのデータベース構築に関する技術交流会を 2 月 28 日（金）に実施する予定であり、その内容について確認した※。菌種同定以外の MALDI-MS の活用方法として MS スペクトラの多変量解析が可能となる eMSTAT の有用性について情報を共有した。          ※コロナウイルスの拡大による情勢を考慮し、後日延期を決定した。4 月以降で再度、日程を調整する予定である。</p> <p><b>(3) チルド勉強会</b>          ・「チルド食品勉強会活動紹介」として、「イルシー」誌に寄稿した。          ・取組んでいる 2 つの活動についてそれぞれ報告事項あり。          耐熱性試験法検証試験          耐熱性試験法検証試験（第 2 弾：各社で条件を揃えて実施）条件設定にあたり、芽胞形成条件を検討した。次回勉強会で、条件を揃えた試験法について説明する。          ボツリヌス菌制御に関する活動          外部機関への接種試験委託を念頭に、試験素案を作成中。</p> <p><b>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</b>          ICMSF：YouTube 動画の和訳は第 4 章まで終了。第 5 章、6 章の下訳を春日先生に確認いただいている（先生自身がコロナウイルス対応で時間がとれず、大幅遅延中）。          FAO/WHO：山口大学豊福先生を通じて、MICROBIOLOGICAL RISK ASSESSMENT SERIES 24 “Statistical Aspects of Microbiological Criteria Related to Foods” の和訳、公開の許可申請、契約締結を進めている。          ＊3/16 に予定していた第 1 回微生物部会はコロナウイルスの影響により、中止と判断。          第 2 回微生物部会は 6 月に NITE にて実施予定。</p>
<p>3, 4 月</p>	<p><b>(1) 芽胞菌研究分科会</b>          ・コロナのため分科会打ち合わせを延期</p> <p><b>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</b></p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会打ち合わせ（3-4月）は開催なし</li> <li>・NITE 連携は技術交流会延期後の進捗無し（日程再調整も未定）</li> </ul> <p>(3) チルド勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボツリヌス菌制御に関する活動、耐熱性試験法検証の素案作成中</li> <li>・上記素案作成に係る打ち合わせを延期</li> </ul> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICMSF ビデオ翻訳：進捗なし（春日先生確認待ち）</li> <li>・WHO/FAO リスクアセスメントシリーズ 24 翻訳： FAO との契約締結を推進中。</li> <li>・ホームページ作成：進捗なし</li> </ul>
5, 6 月	<p>(5) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗なし</li> </ul> <p>(6) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術交流会の開催はコロナの状況を鑑み検討中</li> </ul> <p>(7) チルド勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組み中の 2 つの活動（ボツリヌス菌制御に関する活動、耐熱性試験法検証）について素案作成中</li> <li>・素案確認のためのリーダー打ち合わせは 7 月以降に再延期した。</li> </ul> <p>(8) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗なし</li> </ul>
7, 8 月	<p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <p>進捗なし</p> <p>オンラインでの開催を模索中</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <p>進捗なし</p> <p>NITE とオンラインでの開催可能性について検討中</p> <p>(3) チルド勉強会</p> <p>取組み中のボツリヌス菌制御に関する活動についてリーダー間で打ち合わせを実施し、試験素案について協議した（7/27、オンライン）。今後、勉強会メンバーからの意見を確認予定。</p> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <p>進捗なし</p>
9, 10 月	<p><b>【芽胞菌研究分科会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗なし</li> </ul> <p><b>【チルド勉強会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗なし。</li> <li>・11/19 に勉強会および打ち合わせ予定（Web 開催）。</li> </ul> <p><b>【MALDI-TOF/MS 分科会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NITE-ILSI 連携協定に基づいた打ち合わせを Zoom にて実施し、コロナ禍における現状および MALDI-MS 等の迅速検査法の可能性について議論を実施（9 月 25 日）。</li> <li>・2021 年 3 月末で期限を向かえる NITE との連携協定の延長を口頭にて合意。</li> <li>・島津製 MALDI-MS のデータベースファイルである SuperSpectra 作成のノウハウ</li> </ul>

	<p>勉強会を Zoom にて開催する予定であり、現在詳細を調整中（11月10日）。</p> <p><b>【国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「SARS-CoV-2 と食品安全との関係に関する国際食品微生物規格委員会の意見書について」を和訳し、ILSI Japan ホームページにアップ。</li> <li>・分科会ホームページの作成について、業者と初回打ち合わせを実施。</li> </ul>
11, 12 月	<p>(1) 芽胞菌研究分科会 進捗なし</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NITE-ILSI Japan 連携に基づく SuperSpectra 作成ノウハウ勉強会(2020年11月)を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>→Zoom による Web ミーティング方式で開催（参加者 24 名）</li> <li>→MALDI-TOF MS を用いた微生物解析における疑問点や課題を共有して議論することでデータベース構築のポイントなどが整理され同定精度の向上に寄与した。</li> <li>→次回（第 2 回）の勉強会テーマを募集中。</li> </ul> </li> </ul> <p>(3) チルド勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低温増殖性セレウスグループに関する勉強会、活動に関する打合わせを実施（11/19、Web 開催）。</li> <li>・ボツリヌス菌接種試験活動打合わせ実施。 （12/23、Web 開催、日缶協 山口先生にもご参加いただき試験案へのご助言をいただいた。）</li> <li>・以下 2 つの活動案について参加企業を募集。 （耐熱性試験法検証 11 社、ボツリヌス菌接種試験 5 社の参加を予定）</li> </ul> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会ホームページの作成を発注。</li> <li>・ICMSF VIDEO 第 5、6 章の最終チェックが完了。</li> </ul>

**食品安全研究会**

**【食品リスク研究部会】**

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品リスク評価のレベルアップのための勉強会として、3/19に国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部長・畝山智香子先生に講演を依頼していたが、新型コロナウイルスの影響を受けて、延期とした。なお、同日の部会については予定通り実施する（但し、WEB会議）。</li> <li>・元・国立医薬品食品衛生研究所 変異遺伝部長・林真先生よりご紹介頂いた「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著：元 FDA)」に関する翻訳本の出版、国内シンポジウムの開催について検討を開始。費用・著作権等の契約について明確化、部会にて協議し、承認が得られれば着手予定。</li> </ul>
3, 4 月	<p>2020年度第1回目の部会を開催（2020年3月19日 Web 会議）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規活動「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著：元 FDA)」の情報発信（翻訳本の出版、国内シンポジウムの開催）について部会承認が得られた。5月中旬を目処に翻訳を開始、その後、林真先生、森田健先生の指導の下、修正を行う。並行して出版関係（E-book、POD）、費用他について検討することとした。</li> <li>・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書について次回部会までに1次案を作成し、協議することとした。</li> <li>・なお、国衛試安全情報部長・畝山智香子氏の講演については次回部会に延期となった。</li> <li>・次回部会は7/10（金）に予定。</li> </ul>
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規活動「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著)」の情報発信として、書籍の翻訳を検討。部会メンバーで分担して、翻訳（案）を作成、林真先生、森田健先生の指導の下、年内を目処に推敲を繰り返し、翻訳を完成させる。</li> <li>・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書について1次案を作成、次回（7/10）部会にて協議する。</li> <li>・国衛試安全情報部長・畝山智香子先生による食品中化学物質のリスク分析、リスクコミュニケーションに関する講演会を7/10開催予定。</li> </ul>
7, 8 月	<p>2020年度第2回目の部会を開催（2020年7月10日 ILSI 会議室+Web 会議）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規活動「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著)」の情報発信として、書籍の翻訳を検討。林真先生、森田健先生の修正をもとに、部会メンバーで分担して、推敲、追加説明の必要な個所の抽出を行うこととした。引き続き、林真先生、森田健先生の指導の下、年内を目処に推敲を繰り返し、翻訳を完成させる。</li> <li>・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書について構成を一部変更、2021年6月発行予定のイルシ</li> </ul>

	<p>一誌への投稿を目指し、年内に報告書案を完成することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加企業の食品リスク評価のレベルアップのための勉強会として、国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長・畝山智香子先生をお招きし、「ほんとうの食の安全を考える」～食品中化学物質のリスクについて～と題して講演会を開催、29名聴講（ILSI会議室にて講演、同時にWeb配信）。イルシー誌144号に掲載予定。</li> <li>・次回部会は10月7日に開催予定。</li> </ul>
9, 10月	<p>2020年度第3回目の部会を開催（10月7日Web会議）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規活動「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著)」の情報発信として、翻訳本の出版に加えてシンポジウムの開催を検討。シンポジウムの概要（形式、日程、集客人数等）、コンセプト、演題案を協議し、概ね合意した。</li> <li>・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書について11月初までに初案を作成し、部会で協議することとした。2021年5月発行予定のイルシー誌への投稿を目指す。</li> </ul>
11, 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著)」翻訳本の出版に向け、日本語題名・副題、裏表紙、背表紙及び章末の用語解説・参考情報とその引用許可、ILSI Japan 食品リスク研究部会としての「翻訳・出版に向けて」の記載内容について検討した。各項目について案を作成し、監訳者の林先生、森田先生のご了解を頂くとともに、引用の許可を得た。</li> <li>・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書について2021年5月発行予定のイルシー誌への投稿を目指し、初案を作成、修正中。詳細について、次回部会で協議することとした。次回部会は2021年1月20日を予定。</li> </ul>

## ILSI Japan 活動報告<2020>

### **食品安全研究会**

#### **【香料研究部会】**

1, 2 月	特に進捗なし
3, 4 月	特に進捗なし
5, 6 月	特に進捗なし
7, 8 月	特に進捗なし
9, 10 月	特に進捗なし
11, 12 月	特に進捗なし

## ILSI Japan 活動報告<2020>

### AAT プロジェクト

#### ◆概要

1, 2 月	国際ワークショップの開催および2つの研究テーマ推進を3本柱とするワーキンググループ活動を国立医薬品食品衛生研究所、AI-SHIPS、NITE 等の多数のアカデミアや学会、およびアジアやヨーロッパの ILSI 支部と連携しながら進めている。日本毒性病理学会（2/14）にて活動内容について講演した。
3, 4 月	国際 WS とシンポの同時開催および2つの研究テーマ推進を3本柱とする WG 活動を国立衛生研、AI-SHIPS、NITE 等の多数のアカデミアや学会、およびアジアや EU の ILSI 支部と連携しながら進めている。
5, 6 月	国際 WS とシンポの同時開催および2つの研究テーマ推進を3本柱とする WG 活動を、国立衛生研、AI-SHIPS、NITE 等の多数のアカデミアや学会、およびアジアや EU の ILSI 支部と連携しながら進めている。 ・全体会議を開催（6/2）。各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、承認した。さらに、AI-SHIPS コンソーシアムへの参加、ケースレポート作成を推進する新 WG の設置、今秋に横浜にて開催で準備を進めてきた国際 WS&シンポジウムの1年延期を決定した。 ・国際 WS の日本側プログラム委員会を開催し（6/17）、1年延期を正式に決定すると共に、来秋の開催に向けた活動計画について合意した。 ・日本毒性学会（6/29~7/1 @WEB 開催）にてプロジェクトの活動内容を発表した。
7, 8 月	国際 WS とシンポの同時開催および2つの研究テーマ推進を3本柱とする WG 活動を、国立医薬品食品衛生研究所、AI-SHIPS、NITE 等の多数のアカデミアや学会、およびアジアや EU の ILSI 支部と連携しながら進めている。 ・AI-SHIPS コンソーシアムへ参加し、AI-SHIPS 毒性予測システムの活用に関して ILSI の要望を提案した。 ・ケースレポート作成を推進する新 WG の概要案について議論した。次回全体会議で説明し、メンバー募集後に活動開始予定。

#### ◆全体進捗

9, 10 月	① 国際 WS とシンポの同時開催と情報発信および ② 2つの研究テーマ推進による評価戦略の構築と実装、を両輪とする活動を国立医薬品食品衛生研究所、AI-SHIPS、NITE 等の多数のアカデミアや学会およびアジアや EU の ILSI 支部と連携しながら進めている。  ・全体会議を開催（9/8）。各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、承認した。安全性評価戦略の構築と実装の加速を目的とした新 WG であるケースレポート作成 WG の活動計画が説明され、活動がスタートした。また、AI-SHIPS コンソーシアムの詳細な活動情報を共有した。 ・全体会議後に AAT プロジェクト参画会社限定でオンラインにて講演会を開催し、FDA のワーキングや EU の次期プロジェクト等の欧米の代替法開発の最新動向を解説いただいた。講演内容は「フラッシュ・レポート」としてイルシー誌に掲載予
---------	---

	<p>定。</p> <p>講師：小島肇先生（国立医薬品食品衛生研究所室長）</p> <p>演題：代替法開発に向けた最新動向・海外の動きを中心にして・</p> <p>参加者：約 50 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コアメンバー会議を開催し、国際 WS における海外演者の見直しやパネルディスカッションの方向性等について議論した。11 月に小島先生と議論した上で日本側最終案を確定させる。</li> </ul>
11, 12 月	<p>① 国際 WS とシンポの同時開催と情報発信および ② 3 つの研究テーマ推進による評価戦略の構築と実装、を両輪とする活動を国立医薬品食品衛生研究所、AI-SHIPS、NITE 等の多数のアカデミアや学会およびアジアや EU の ILSI 支部と連携しながら進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会議を開催（12/7 Web）。</li> </ul> <p>各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、承認した。2021 年度の活動費用と会費について説明。会費納付について 12 月中に事務局より文書で連絡する。ILSI Japan ホームページでの活動説明資料、小島肇先生の講演会（前回報告）のフラッシュレポート概要について情報共有した。プロジェクトリーダーの交代（12/8 付）を承認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コアメンバー会議を開催し、国際 WS における海外演者の見直しやパネルディスカッションの方向性等について小島先生と議論し日本側最終案を確定させた。12 月に海外演者に参加及び講演依頼を打診した。</li> </ul>

#### ◆2020 国際ワークショップ (WS) (ILSI Europe 協働)

1, 2 月	<p>【概要】 食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として 2020/10/22~23 に横浜で限定公開（AAT 関連メンバー等）にて開催する。</p> <p>【進捗】 ILSI Europe との Web 会議やプログラム委員会にて大会長を含めた座長・演者の確定やアジア支部の意向確認等、プログラム案をさらに具体化すると共に、学会・行政等の招待案、ワークショップ Statement 案を検討した。また、実務作業を担うワーキンググループ会議を開催し、今後の作業予定を確認するとともに、実務作業を開始した。</p>
3, 4 月	<p>【概要】 食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として国際 WS を 2020/10/22~23 に横浜で限定公開（AAT 関連メンバー等）にて、さらに公開国際シンポを 10/23 午後に同会場で開催する。</p> <p>【進捗】 ILSI の当該活動内容・成果を広めるために国際 WS 終了後に公開にて国際シンポを開催することとし、ILSI Europe との Web 会議やプログラム委員会にて当該シンポ開催の是非を検討し、了承された。さらに WS 及びシンポの大会長を含めた座長・演者の確定やアジア支部の意向最終確認等、両集会のプログラム案をさらに具体化すると共に、学会・行政等の後援・招待案、ワークショップ Statement 案の検討を継続した。また、実務作業を担うワーキンググループ会議を開催し、今後の作業予定を確認するとともに、座長・演者への事前確認、後援・招待の事前確認並びに論文投稿先の選考や原稿作成方法等の検討を含めた実務作業を実施している。</p>
5, 6 月	<p>【概要】 食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として国際 WS を限定公開（AAT 関連メンバー等）にて、さらに国際シンポ（公開）を同会場で開催する。なお、2020/10/22~23 に横浜で開催予定であ</p>



	<p>った国際 WS 及びシンポを 1 年延期すること決定し、延期に係る作業を行った。</p> <p>【進捗】国際 WS 及び国際シンポが延期されることが正式に決定したのを受け、演者・座長の招聘者及び招待者に対して延期連絡案内の送付、会場・宿泊・同時通訳のキャンセル、再度開催会場の選定作業を開始した。なお、WS-Statement 案作成と安全性／機能性評価戦略の検討は継続した。また、論文投稿先及び原稿作成方法を決定し、投稿先編集部との協議準備を開始した。</p>
7, 8 月	<p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として国際 WS を限定公開（AAT 関連メンバー等）にて、さらに国際シンポ（公開）を同会場で開催する。なお、延期期間を 1 年とし、次の開催時期は 2021/10/21～22 を目途として開催準備等を開始した。</p> <p>【進捗】国際 WS 及び国際シンポの延期時期を 2021/10/21～22 とすることが了承されたのを受け、同時期に開催可能な会場並びに宿泊施設を都内中心に調査した。会場規模、料金、場所等を比較検討し、内覧希望会場を数か所選考しホテルも含め内覧した。また、論文投稿については投稿先編集部に連絡し、投稿自体は受けられるとの回答を得た。なお、編集部より助言された論文の構成・文字数等についても検討をする。</p>
9, 10 月	<p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として国際 WS を限定公開（AAT 関連メンバー等）にて、さらに国際シンポ（公開）を同会場で開催する。なお、延期した開催時期は 2021/10/21～22、会場は KFC ホール両国とした。</p> <p>【進捗】国際 WS 及び国際シンポの延期開催が 2021/10/21～22 に決定したのを受け、同時期に開催可能な会場並びに宿泊施設を都内中心に調査・内覧し、会場は KFC ホール両国、ホテルは第一ホテル両国に決定した。会場及び同時通訳に関して、施設・設備、レイアウト、当日を含めた段取り等及び費用の概算を確認した。論文投稿については投稿先編集部と論文の構成・文字数等について協議を継続する。また、欧州の演者について ILSI Europe に確認するとともに、北米の演者について FDA を中心に再調査を開始した。さらに WS Panel Discussion の進め方及び WS-Statement 具体化について協議し、欧米の演者を決定後に日米欧 3 局で打合せを行うこととした。</p>
11, 12 月	<p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として国際 WS を限定公開（AAT 関連メンバー等）にて、さらに国際シンポ（公開）を同会場で開催する。なお、延期した開催時期は 2021/10/21～22、会場は KFC ホール両国とした。</p> <p>【進捗】WG 定例会議を 11/5 と 12/9 に、また、北米の演者選定、WS Panel Discussion の進め方及び WS-Statement 具体化に関する Core member 会議を 11/24 に開催した。国際 WS 及びシンポの来年度予算について、会場、同時通訳、宿泊等の見積もりを再度取得・検証し報告した。論文投稿について投稿先編集部と論文の構成・文字数等を協議し概ね了解を得た。海外演者について、欧州は原則変更なしであることを確認、北米は FDA と EPA から各 1 名を選定し、参加及び講演依頼を打診した。さらに、Panel Discussion の進め方及び WS-Statement 具体化についても協議し、方向性等の日本側最終案をまとめた。</p>

◆腸管吸収ワーキンググループ ⇒ 体内暴露予測ワーキンググループ（名称変更）

1, 2 月	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測（計算）モデルの適用性を検討する。</p>
--------	--

	<p>【進捗】医薬品・一般化学物質を中心とした成分をもとに作成したヒト血中動態予測モデルを用いて、物価性状などの <i>in silico</i> 情報をもとに食品成分のヒト血中動態の予測精度の検討を進めた結果、輸送体の関与を評価する方法を組み込む必要があると考えられた。</p>
3, 4 月	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測（計算）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】腸管吸収性の予測に関して、<i>in vitro</i> 試験データを <i>in silico</i> で予測できるか検証すべく、食品成分の <i>in vitro</i> 透過性試験データの文献調査を行った。その結果、計 82 の食品成分のデータを見出した。また、ヒト血中動態予測性の更なる把握を目的に文献調査を行った結果、新たに 11 物質のヒト血中動態データを見出した。</p>
5, 6 月	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測（計算）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】受動拡散か否かの <i>in silico</i> 予測を含めた、食品成分のヒト血中動態予測フロー（案）および今後の検討の方向性を 6/2 の定例会で報告し、大枠について承認を得た。</p>
7, 8 月	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測（計算）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】食品成分のヒト吸収性および血中動態予測フロー（案）に関して、実運用に向けた課題を議論・整理した。</p>
9, 10 月	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測（<i>in silico</i>）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】食品成分のヒト吸収性および血中動態予測フロー（案）に関して山崎先生ら関係者と議論した。All <i>in silico</i> での予測は現状難しく、腸管膜透過に関して <i>in vitro</i> 試験が必要な場合があることを確認した。また、<i>in vitro</i> 試験の実験条件の詳細を確認しつつ、適用範囲の考え方（案）を共有し、大枠で合意した。</p>
11, 12 月	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測（<i>in silico</i>）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】All <i>in silico</i> での予測は現状難しいことを踏まえ、腸管膜透過に関して <i>in vitro</i> 試験を組み込んだ評価フロー案を構築した。また、来年度の活動方針として、① 山崎研究室の動態予測（<i>in silico</i>）モデルの効果的活用と信頼性向上、② 予測性向上に向けた新規ツール活用、③ ケースレポート作成支援、を決定した。①②に関しては、WG 内に小チームを形成し、並行して活動することとした。</p>

#### ◆データベースワーキンググループ

1, 2 月	<p>【概要】毒性文献等を活用した反復投与毒性を予測する手法の活用。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】データを収集する食品成分について、AI-SHIPS のケミカルスペースを基に一般化学物質と比較して食品成分の存在比率の高い区画に分類された成分の、既存データベースへの登録の有無を確認した結果、殆ど認められなかった。登録候補成分の</p>
--------	--

	優先順位付け、及び予測精度向上に向けたケーススタディの方法について検討を継続中。インプットフォーマットへの登録作業の課題を抽出すると共に食品成分の毒性試験情報を収集する論文の選定基準案を策定した。
3, 4 月	<p>【概要】 毒性文献等を活用した反復投与毒性を予測する手法の活用。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】 データを収集する食品成分について、ケミカルスペースを基に導いた約 200 化合物から無機塩等を除いた約 140 種について毒性試験情報の収集を開始。インプットフォーマットの課題解決に向け産総研 竹下先生との Web 会議を実施し、病理所見の課題解決を実施した。優先化合物 50 種を選定し、HESS を用いた有用性検証に向け HESS フォーマットを用いて毒性試験情報を収載することを決定した。また、国立衛研 山田先生が主導する食品安全委員会テーマとの連携を決定し、今後の進め方について山崎先生と Web 会議を実施した。</p>
5, 6 月	<p>【概要】 毒性文献等を活用した反復投与毒性を予測する手法の活用。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】 データを収集する食品成分について、140 化合物の情報収集を実施中。現在、被験物質投与に起因した変化が確認される論文約 50 種について精査を実施中。データを搭載する化合物は 50 種を予定しているが、毒性が認められるものだけでは数が不足する可能性があるため追加検討実施中。食安委助成テーマの一部として推進するため、テーマの先生方と今後の具体的な進め方について議論し、合意した。</p>
7, 8 月	<p>【概要】 食品成分の既存毒性情報（文献等）を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する</p> <p>【進捗】 データを収集する食品成分について、先行登録物質として約 40 種を選定し、食品安全委員会プロジェクト及び AI-SHIPS と協議して HESS フォーマットへの登録方法を決定し、実作業を開始した。引き続き 50 種選定に向け成分調査を継続中。10 月を目途に完了予定。</p>
9, 10 月	<p>【概要】 食品成分の既存毒性情報（文献等）を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】 先行登録物質 42 種について 37 種までの登録を完了。予定通り進捗しており、10 月中に終了予定。これら先行登録物質の活用による食品成分の毒性予測性向上の検証方法について検討を進め、NITE との議論の場を設定。ケースレポート WG と連携し、毒性を有する化合物の選定及び予測スキームの検討を開始した。</p>
11, 12 月	<p>【概要】 食品成分の既存毒性情報（文献等）を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】 毒性予測を目的とした食品成分毒性試験情報のリスト化、データベースへの登録作業を進め、先行登録化合物 50 成分のリスト化、及び登録が完了した。NITE で開発された予測システム HESS を用いて、今回新たに構築した ILSI データベース (50 化合物) 情報の追加による予測精度向上の検証を行った (2018 年に一度検証を行っておりデータベースの改善が必要であることを見出していた)。その結果、41 評価化合物中、13 化合物にて予測精度の向上が確認された。来年度 150 種の化合物情報の登録を予定しており、化合物選定に関する議論を開始した。</p>

#### ◆ケースレポートワーキンググループ

1, 2 月	
3, 4 月	

5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	<p>【概要】 NAMs を用いた食品成分の安全性評価戦略の具体化と実装の加速を目的に、腸管吸収 WG とデータベース WG の活動を起点に、<i>in vitro</i> assay 系を加えたリスク評価戦略の具体事例を作成し、ケースレポートとして発信する。</p> <p>【進捗】 9 月度全体会議にて WG の概要と活動方針を共有し、合意を得た。ワーキングメンバーを募集し、評価戦略の具体化とケースレポートの対象物質について検討を開始した。</p>
11, 12 月	<p>【概要】 NAMs を用いた食品成分の安全性評価戦略の具体化と実装の加速を目的に、体内暴露予測 WG とデータベース WG の活動を起点に、<i>in vitro</i> assay 系を加えたリスク評価戦略の具体事例を作成し、ケースレポートとして発信する。</p> <p>【進捗】 今期より WG 活動を開始。「肝障害」を第 1 弾のケーススタディのテーマに選定した。対象物質として、機能性表示食品成分では毒性が弱く、動物やヒトでの知見が限定的であることから、食品成分全般を対象として、動物とヒトにおいて肝障害の報告のある物質の調査を開始した。</p>

#### ◆定期会議

1, 2 月	
3, 4 月	<p>3/5 にプロジェクト全体会議を開催（Web 会議併催） 参加者：会員 12 社 22 名、中江先生（アドバイザー）、事務局 2 名。</p>
5, 6 月	<p>・ 6/2 にプロジェクト全体会議を開催（WEB 開催） 参加者：会員 12 社 29 名、中江先生（アドバイザー）、事務局 2 名。 ・ 次回全体会議は 9 月上旬で調整中。</p>
7, 8 月	<p>次回全体会議および講演会を 9/8（火）@WEB にて開催予定。</p>

ILSI Japan 活動報告<2020>

バイオテクノロジー研究会

<p>1, 2 月</p>	<p>1. 2020 年度 第 1 回目会議を 2 月 18 日に開催</p> <p><b>(1) ERA プロジェクト調査報告書</b>          第 48 号を 2 月発刊、ERA プロジェクト調査報告          第 49 号の勉強会：          ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p><b>(2) 大豆論文 雑誌掲載完了について</b>          Consideration of familiarity accumulated in the confined field trials for environmental risk assessment of genetically modified soybean (Glycine max) in Japan)          Transgenic Research (2020)pp1-14  <a href="https://link.springer.com/article/10.1007%2Fs11248-020-00193-z">https://link.springer.com/article/10.1007%2Fs11248-020-00193-z</a>          隔離ほ場試験データトランスポータビリティーについて          これまでの議論の振り返り、論点整理、意見交換する良い機会であるため当論文掲載完了を機にワークショップを開催する。タスクフォース設立が提案され、承認された。2 月 26 日にタスクフォースメンバー活動開始。</p> <p><b>(3) 2020 年度活動計画、助成金申請について</b>          来年度の助成金が理事会で承認されたことが報告された。</p> <p><b>(4) 会計報告、その他</b>          ・ ERA 報告書について、450 号に達したので集約版を作成することが提案され、承認された。昨年 3 月、8 月の特別号を巻末に付録として挿入する予定。</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>2020 年度 第 2 回目会議を 4 月 17 日に開催（リモート会議）</p> <p><b>(1) ERA プロジェクト調査報告書</b>          ・ 第 49 号を 4 月発刊。          「イルシー」No. 139 に掲載された寄稿「小口太一：我が国の学術目的での遺伝子組換え植物の第一種使用規定の承認審査の変遷：申請者の視点による評価」別刷りも同封し配布。          ・ 第 50 号の勉強会：10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p><b>(2) ILSI ERA 勉強会（隔離ほ場試験データトランスポータビリティーについて）</b>          ・ 当勉強会の WG の活動の報告がなされた。          -開催候補日：2020 年 10 月 8 日          -目的：遺伝子組換え作物の安全性、環境影響評価に関する科学的な知見を専門家、規制当局を含む関係者に情報提供し、さらなる科学的なリスク評価の発展に貢献          -規模：100 人程</p> <p><b>(3) 会計報告</b>          ・ 予算進捗を確認した。</p> <p><b>(4) その他</b>          ・ ERA 報告書集約版：送付先確認を実施。第 50 号と共に同封し送付予定。</p>
<p>5, 6 月</p>	<p>1. 2020 年 6 月 3 日に臨時幹事会を開催（リモート会議）</p> <p><b>(1) COVID-19 下 ERA 報告書および官庁訪問の在り方について</b></p>

	<p>➡ No.50 号報告書は郵送および電話で説明対応。中長期的にも状況を鑑みリモート会議でも対応ができるのかを確認する。 ERA 集約版は、上記官庁との最善なコミュニケーション方法が判明した後（8月）送付することとする。</p> <p><b>(2) ILSI RF の ILSI 脱退、Agriculture &amp; Food Systems Institute (AFSI) 設立に対する当研究会としての対応</b> 背景概要：2020年5月にRFはILSI脱退、AFSIを設立。 当研究会はこれまでRFと多くのWSで関わってきた。 ➡当研究会として、AFSI代表とILSI Federationと合意したTalking Pointを規制当局に伝えることとした。</p> <p><b>2. 2020年度 第3回目会議を6月22日に開催（リモート会議）</b></p> <p><b>(1) ERA プロジェクト調査報告書</b> ・第51号の勉強会：10報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p><b>(2) ILSI ERA 勉強会（隔離ほ場試験データトランスポートビリティについて）</b> ・当勉強会のWGの活動（5/20, 6/10）の報告がなされた。 -開催日：2020年10月8日に決定 -目的：遺伝子組換え作物の安全性、環境影響評価に関する科学的な知見を情報提供し、さらなる科学的なリスク評価の発展に貢献 -規模：100人程</p> <p><b>(3) 6月3日開催 臨時幹事会 概要報告</b></p> <p><b>(4) 会計報告</b> ・予算進捗を確認した。</p> <p><b>(5) その他</b> ・副会長交代：協和発酵バイオ(株)森下氏から川田氏に交代</p>
7, 8 月	<p>2020年8月31日に第4回目会議を開催（リモート会議）</p> <p><b>(1) ERA プロジェクト調査報告書</b> ・第52号の勉強会：10報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p><b>(2) ILSI ERA 勉強会（隔離ほ場試験データトランスポートビリティについて）開催日：2020年10月8日 COVID-19 対応観点からリモート会議体とする</b> <b>予定演題：</b> ILSI Japan におけるこれまでのデータトランスポートビリティの取組み（ILSI Japan 中井 秀一） 農林水産省におけるこれまでのデータトランスポートビリティの取組み（農林水産省消費・安全局 審査官 高島 賢氏） 遺伝子組換えダイズの国内隔離ほ場試験に関する論文（Matsushita <i>et al.</i>, 2020）の紹介（ILSI Japan 松下 茜）</p> <p><b>(3) ERA 報告書 関係省庁へのご説明に関して</b> これまで直接訪問し説明を実施してきた ERA 報告書配布に関し、リモート会議での実施方法について共有。</p> <p><b>(4) 会計報告</b> ・予算進捗を確認した。</p> <p><b>(5) その他</b></p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度活動予算申請事業（ゲノム編集技術応用発酵生産された食品添加物等の安全性審査に関するワークショップ・2020年11月、リモート開催予定）について 現在の準備状況報告、意見交換。</li> <li>・2021年度 ERA 調査報告書事業 予算減額検討について 2021年度以降の活動の在り方について幹事会で検討を開始する。</li> </ul>
9, 10 月	<p>1. ERA 報告事業</p> <p>定例の官公庁向け ERA 報告事業を COVID-19 対応で各種 Web 会議で対応（9/7, 9/8, 9/24）。食品安全委員会事務局訪問（9/17）AFSI の設立について説明、ERA 報告書 51 号および ERA 報告書集約版のご説明を実施。</p> <p>2. 遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価に関する現状と展望 -遺伝子組換え作物のデータトランスポートビリティについて-</p> <p>開催 日時：2020年10月8日木曜日 14:00-17:30 場所：Teams 会議（Web 会議） （演者・勉強会事務局：TKP 秋葉原カンファレンスセンター） 参加者数：オンライン参加 49 名、会場 12 名</p> <p><b>演題：</b> ILSI Japan における隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティに関するこれまでの取組みと今後の論点</p> <p>ILSI Japan 中井 秀一 氏 農林水産省におけるこれまでのデータトランスポートビリティの取組み 農林水産省消費・安全局 審査官 高島 賢 氏 遺伝子組換えダイズの国内隔離ほ場試験に関する論文（Matsushita et al., 2020）の紹介</p> <p>ILSI Japan 松下 茜 氏 日本におけるデータトランスポートビリティに関する現状と論点の整理</p> <p>ILSI Japan 高本 圭 氏 隔離ほ場試験の意義と留意点 筑波大学 生命環境系 教授 佐藤 忍 氏</p> <p>3. 10月19日に第5回目会議を開催（リモート会議）</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第53号の勉強会：10報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li> </ul> <p>(2) ILSI ERA 勉強会遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価に関する現状と展望 -遺伝子組換え作物のデータトランスポートビリティについて- 開催（2. に報告と同内容）</p> <p>(3) ERA 報告事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度より、研究会開催および ERA 報告事業を年6回から4回に削減することが決定された。</li> </ul> <p>(4) 会計報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算進捗を確認した。</li> </ul>
11, 12 月	<p>1. 12月14日に第6回目会議を開催（リモート会議）</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書</p>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・第 54 号の勉強会：10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li></ul> <p>(2) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・部会長会議報告、および 2021 年活動予算申請審議経過</li><li>・ILSI ERA 勉強会遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価に関する現状と展望 – 遺伝子組換え作物のデータトランスポートビリティについて– 「イルシー」誌掲載原稿進捗状況共有</li></ul> <p>(3) 会計報告</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・予算進捗を確認した。</li></ul>
--	---



## ILSI Japan 活動報告<2020>

### 栄養健康研究会

#### 【栄養研究部会】

1, 2 月	特に進捗なし
3, 4 月	特に進捗なし
5, 6 月	栄養研究部会（研究テーマ、活動方法）についてのアンケート調査実施
7, 8 月	<p>2020 年度 第 1 回目の栄養研究部会を Web (Zoom) で開催 (7 月 13 日、15:30~17:00) し、今後について意見交換した。その結果、以下の方針で合意した。</p> <p>① 栄養研究部会の活動を再開させる。当面の間、1 か月~1 か月半毎に会議 (Web 会議 : Zoom) を開催し、日頃の活動などを具体化させる。</p> <p>② 新たな研究テーマ (研究テーマの領域) は「栄養・運動と免疫機能」とする。</p> <p>③ 日頃の活動としては、専門の先生を呼んで定期的に勉強会 (講演会) を開く。具体化に向け、まずは、部員から「栄養・運動と免疫機能」領域のトピックス (題目・話題) と講師の先生について、ご提案いただく (アンケート調査実施)。</p> <p>④ 4 年毎に「ライフサイエンスシンポジウム」と「栄養とエイジング」国際会議を開催する (次回開催年はライフサイエンスシンポジウム : 2022 年、「栄養とエイジング」国際会議 : 2023 年)。</p> <p>日頃の活動でしっかりした内容を蓄積し、イベントでの発表、あるいは論文化など外部への積極的な情報発信を行う。</p>
9, 10 月	<p>1. 2020 年度 第 2 回目の部会を Web (Zoom) で開催 (9 月 2 日、15:00~16:30) し、以下の方針で合意した。</p> <p>⑤ 栄養研究部会の HP の更新案 (部会長と事務局に一任)。</p> <p>⑥ 「栄養・運動と免疫機能」の領域のトピックスと先生のアンケート調査結果 (計、26 件 : 26 名の先生) の共有。次回の部会までに、トピックスの絞り込み (カテゴリー分け) を行うことにした。</p> <p>⑦ 原稿締め切りが 2020 年 11 月 15 日のイルシー誌 (No.145、2021 年 2 月発行) に原稿が間に合えば、栄養研究部会の新たな活動 (定期的な勉強会 (講演会) など) を紹介する記事を作成し提出することにした。</p> <p>2. 2020 年度 第 3 回目の部会を Web (Zoom) で開催 (9 月 15 日、15:00~17:00) し、以下の方針で合意した。</p> <p>① 「栄養・運動と免疫機能」の領域の 26 件のトピックスについて、カテゴリー分類し、日頃の勉強会 (講演会) で優先すべきトピックス 8 件 (8 名の候補の先生) に絞り込んだ。</p> <p>3. ILSI Japan 理事の清水先生 (東京農業大学) をお招きし、2020 年度 第 4 回目の部会を Web (Zoom) で開催 (10 月 2 日、10:30~11:30) し、勉強会案についてアドバイスをいただいた。</p> <p>4. 2021 年 ILSI Japan 研究会・研究部会 活動計画書・予算申請書 (活動の名称 : 栄養と運動が免疫機能に及ぼす影響についての最新の情報の収集と発信) を事務局に</p>

	提出した（10月23日）。
11, 12月	<p>1. イルシー誌 No.145（2021年2月発行）に事務局との協働で栄養研究部会の研究会トピックス（題目：「栄養と健康」をテーマとした新たな活動の紹介）を寄稿（10月下旬～11月初旬）</p> <p>2. 2020年度 研究会長・部会長 Web 会議 (Zoom) に参加（11月10日、15:00～17:30）</p> <p>⑧ 栄養研究部会の 2020 年度の活動内容について報告。</p> <p>⑨ 2021 年度の活動方針（2021 年 ILSI Japan 研究会・研究部会 活動計画書・予算申請書（活動の名称：栄養と運動が免疫機能に及ぼす影響についての最新の情報の収集と発信）について報告。後日、本件は承認された。</p> <p>3. 2020 年度 第 5 回目の部会を Web (Zoom) で開催（11月16日、13:00～14:40）し、以下の方針で合意した。</p> <p>② 2021 年度からは「栄養・運動と免疫機能」をテーマに Web 勉強会（2021 年 3 月、6 月、9 月、12 月、2022 年 3 月）を開催する。</p> <p>③ 2022 年 7～9 月に第 10 回「ライフサイエンスシンポジウム」を、2023 年 9 月に第 9 回「栄養とエイジング」国際会議を開催することを目指す。</p> <p>4. 2021 年からの Web 勉強会でご講演いただきたい先生方へのファーストコンタクトを事務局と協働で開始（12 月）。</p>

## ILSI Japan 活動報告<2020>

### **栄養健康研究会**

#### **【GR プロジェクト】**

1, 2 月	多施設試験追試実施
3, 4 月	特に進捗なし
5, 6 月	特に進捗なし
7, 8 月	特に進捗なし
9, 10 月	特に進捗なし
11, 12 月	特に進捗なし

ILSI Japan 活動報告<2020>

**栄養健康研究会**

**【茶類研究部会・茶情報分科会】**

1, 2 月	特に進捗なし
3, 4 月	特に進捗なし
5, 6 月	特に進捗なし
7, 8 月	特に進捗なし
9, 10 月	特に進捗なし
11, 12 月	特に進捗なし

## ILSI Japan 活動報告<2020>

### 健康な食事研究会

#### ◆健康な食事研究会全体

1, 2 月	健康な食事研究会の今後の方向性について、2月20日の第11回全体会議で再度議論した。これまでの健康な食事研究会は、ここで一度区切りをつけ終了。新たな活動について意見交換を行った。今後、方向性を明確化させる予定。
3, 4 月	1. 2月20日に開催された第11回全体会議で以下が決まった。 <ul style="list-style-type: none"><li>健康な食事研究会は、本年5月中旬締切の「イルシー」誌投稿をもって活動を終了とする。</li><li>食と健康に関連して既存あるいは新規の研究会で活動を継続するかについて引き続き検討する。</li></ul> 2. 第8回「栄養とエイジング」国際会議の発表内容をプロシーディングスとしてまとめ、Nutrition Reviews のサプリメント版に掲載すべく準備中である。
5, 6 月	第8回「栄養とエイジング」国際会議の発表内容をプロシーディングスとしてまとめ、Nutrition Reviews のサプリメント版に掲載すべく準備し、投稿した。

#### ◆ワーキンググループ1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築

1, 2 月	特に進捗なし
3, 4 月	特に進捗なし
5, 6 月	特に進捗なし

#### ◆ワーキンググループ2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"><li>第8回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容をまとめ、Nutr. Rev.への投稿論文を作成した。</li><li>「イルシー」誌143号への論文投稿に向けアンケートデータ解析中。投稿用原稿を作業チームに分かれ、3月末を目途に作成中。</li></ul>
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"><li>「イルシー」誌143号への論文投稿に向け投稿用原稿の一部（緒言、中食企業への訪問調査）が完成した。現在、アンケートデータを解析中。</li><li>Nutrition Reviews 投稿原稿の修正・加筆対応。</li></ul>
5, 6 月	「イルシー」誌143号に論文（表題：ILSI Japan 健康な食事研究会 WG2 食の外部化を担う企業、特に中食企業における健康、栄養の意識の実態 2017年～2019年活動報告）を投稿した。

#### ◆ワーキンググループ3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"><li>第8回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容をまとめ、Nutr. Rev.への投稿論文を作成した。</li><li>2月13日にミーティングを実施。「イルシー」誌143号への論文投稿に向け論文の骨子を作成した。また、スケジュールを明確化させた。</li></ul>
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"><li>「イルシー」誌143号への論文投稿に向け投稿用論文の一部（はじめに、方法、結</li></ul>

	果) が完成した。現在、論文の考察部分を作成中。
5, 6 月	「イルシー」誌 143 号に論文 (表題 : ILSI Japan 健康な食事研究会 WG3 健康な食事の社会実装 2017 年~2019 年活動報告) を投稿した。

## ILSI Japan 活動報告<2020>

### CHP

#### ◆CHP 全体

1, 2 月	
3, 4 月	5 月 17 日に予定されていた栄養食糧学会での ILSI/栄養食糧学会共催での「食の多様性と健康に関するシンポジウム」は中止となった（学会の開催が中止決定）。
5, 6 月	5 月に開催予定であった栄養食糧学会におけるシンポジウム「食品摂取の多様性と健康～行動変容のための革新的アプローチ～」の内容について、今秋発行予定の「イルシー」誌 144 号に掲載することとなった。
7, 8 月	特になし
9, 10 月	特になし
11, 12 月	・ CHP の活動について SDGs（Sustainable Development Goals）実現のプラットフォームとしてより多くの企業に参加を求める方向での検討開始。2 月の支部総会で提案することを目指す。

CHP

◆Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養” プロジェクト

1, 2 月	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ～元気で長生きのための運動・栄養プログラム～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第5回 すみだテイクテン自主グループ交流会：1月23日 (すみだ女性センター)</li> <li>・ 介護予防「らくらく教室」講習会にて講義：1月29日 (足立区地域包括支援センター千住本町)</li> <li>・ 「いしのまきテイクテン」 1月31日 石巻専修大学田中ゼミナールの学生と実践演習 (石巻市南境集会所) 2月1日 住民、学生と協力をして教室開催。学生と住民による調理・食事の提供・栄養の講話・体操，住民20名、学生6名参加。(石巻市新蛇田復興住宅集会所)</li> <li>・ 墨田区委託事業「栄養講演会」：栄養に関する講義と調理実習 協力：2月7日 ハウス食品本社グループ株式会社 (本所地域プラザ) 2月18日 森永乳業株式会社 (八広地域プラザ)</li> <li>・ 「すみだテイクテン」自主グループ活動 「ほっこりテイクテン」：2月13日 (すみだ生涯学習センター) 「スカイテイクテン」：2月20日 (藤平ビル1階, 墨田区)</li> </ul>
3, 4 月	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ～元気で長生きのための運動・栄養プログラム～</p> <p>3月 墨田区委託事業「すみだテイクテン」「栄養講演会」報告書提出。</p>
5, 6 月	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ～元気で長生きのための運動・栄養プログラム～</p> <p>地元住民が参加して制作したテイクテン紹介の VTR が新型コロナウイルス感染拡大下の運動不足対策として、吉賀町、津和野町のケーブルテレビで、3月から継続して放映されている。</p>
7, 8 月	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ～元気で長生きのための運動・栄養プログラム～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 墨田区の介護予防事業「すみだテイクテン教室」(16年目, 9月開始)の各種準備を行った。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染拡大下において、外出を控えている墨田区民への対応として「すみだテイクテン教室」の内容を簡単に説明する VTR を製作。YouTube に掲載予定。</li> </ul>
9, 10 月	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ～元気で長生きのための運動・栄養プログラム～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 墨田区の介護予防事業「すみだテイクテン教室」(16年目)開始 9月8日, 10日, 11日, 23日, 25日, 29日, 10月6日, 7日, 9日, 20日, 21日, 23日 (会場：八広はなみずき高齢者支援総合センター, 墨田区総合体育館, 本所地域プラザ「BIG SHIP」)</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染拡大下において、外出を控えている墨田区民への対応として「すみだテイクテン教室」の内容を簡単に説明する VTR を製作し完成。YouTube に掲載予定。</li> </ul>
11, 12 月	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ～元気で長生きのための運動・栄養プログラム～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 墨田区の介護予防事業「すみだテイクテン教室」(16年目)各会場とも12月で全8回コース終了。 11月4日, 6日, 10日, 17日, 18日, 20日, 12月1日, 2日, 4日, 15日, 16日, 18日 (会場：八広はなみずき高齢者支援総合センター, 墨田区総合体育館, 本所地域プラザ「BIG SHIP」)</li> </ul>



## ILSI Japan 活動報告<2020>

### CHP

#### ◆Project DIET ( Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®)

##### “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト

1, 2 月	<p>◇栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NJPPP セミナー「東京栄養サミット 2020 に向けて」パネルディスカッション：2 月 5 日 ILSI が進めているインドネシア等での職場の栄養改善プロジェクトについて説明した (JICA 竹橋ビル)。</li> <li>・End-line study 実施：2 月 17～21 日/ボゴール農科大学と打ち合わせ (来年度の展開について) ・インドネシア政府・計画省などに説明 (プロジェクトの進捗、展望について)：20 日, 21 日, 24 日 (デルタマス工業団地, インドネシア)</li> </ul>
3, 4 月	<p>◇栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業</p> <p>3 月 インドネシア、カンボジア、ミャンマーの委託事業 (職場の栄養改善) について NJPPP への事業報告書を提出。</p>
5, 6 月	<p>◇栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会にてインドネシア、カンボジア、ミャンマーの各プロジェクトの報告を行った (6 月 24 日)。</li> <li>・NJPPP 委託事業のミャンマーでの取組み (工場食の栄養改善および栄養教育) をもとに、ILSI と協働でプロジェクトを進めているワールド産業が JICA 中小企業支援案件化事業に応募 (ILSI は外部人材として参加)。</li> </ul>
7, 8 月	<p>◇栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミャンマープロジェクト：2021 年度に介入試験 (栄養バランスの良い工場食提供および栄養教育) 実施のための準備としての 2020 年度の活動 (倫理審査の申請等) が NJPPP の作業部会で承認された (8 月 31 日)。</li> <li>・カンボジアでのプロジェクト：昨年度パイロット試験を実施した日系工場での打ち合わせを実施した (8 月 11 日)。</li> </ul>
9, 10 月	<p>◇栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミャンマープロジェクト：JICA との共同事業として進めることを前提に、JICA、JICA の委託先コンサルタント会社、ILSI、中村学園大学で、来年 5 月の工場での介入試験立ち上げを目指した打ち合わせを進めた。在日ミャンマー大使館を訪問しプロジェクトの説明を行った。11 月末・12 月に保健スポーツ省との Web 会議を実施する方向で準備を進める。</li> <li>・カンボジアプロジェクト；プロジェクトの進行の可能性について、富士通総研から引きついだ富士通グループの新会社 Ridgelinez 株式会社 と ILSI が共同で、来年 3 月までに NJPPP へのプロジェクト提案 (スマートフォンを使った栄養啓発システムの再検証) を行うこととした (11 月承認を目指す)。</li> </ul>
11, 12 月	<p>◇栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミャンマープロジェクト：JICA との共同事業として推進。JICA、JICA の委託先コンサルタント会社、ILSI、中村学園大、ワールド産業で打ち合わせを継続実施し (Web 会議)、試験計画概要について合意した。今後、ミャンマー側のパートナーである National Nutrition Centre の合意を得て、保健スポーツ省との Web 会議を実施し (1</li> </ul>

月予定)、倫理審査を申請する方向で準備を進める。(4月認可取得目標、5月試験立ち上げを目指す)

・カンボジアプロジェクト:富士通グループの新会社 Ridgelinez 株式会社 と ILSI との共同プロジェクトとして NJPPP の新たなプロジェクト(スマートフォンを使った栄養啓発システムの再検証)を実施することについて、12月2日 NJPPP 運営委員会(Web会議)で承認された。1月プロジェクト立ち上げ、3月終了予定。

## ILSI Japan 活動報告<2020>

### 国際協力委員会

1, 2 月	<p>委員会開催：2020年1月24日（火）16:00～17:30</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2020年度国際協力委員会予算（支援金）について</li> <li>2. 食品産業センター 食品産業コーデックス対策委員会参加の件</li> <li>3. 関連法規 Follow up の仕組みづくりについて</li> <li>4. BeSeTo 以外の他支部とのコラボについて</li> </ol>
3, 4 月	<p>オンライン委員会開催：2020年4月16日（木）15:00～17:00</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事務局からのご報告（ILSI のコロナ対策、他部・委員会の開催についてご共有） 2020年度国際協力委員会予算（支援金）について</li> <li>2. ILSI SEAR 製作 “Review of Nutrition Labelling, Nutrition &amp; Health Claims Regulations in Asia” 共有先について</li> <li>3. 食産センターコーデックス対策委員会オブザーブ参加の件</li> <li>4. 日添協主催の講演について</li> <li>5. その他（9月 BeSeTo、今後の活動など）</li> </ol>
5, 6 月	<p>オンライン委員会開催：2020年5月25日（木）15:00～17:00</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第12回 BeSeTo 会議テーマの選定</li> <li>2. 日添協秋季講習会発表資料の中身精査</li> <li>3. 食品産業コーデックス対策委員会からの情報共有</li> <li>4. “Review of Nutrition Labelling, Nutrition &amp; Health Claims Regulations in Asia” (ILSI SEAR)の Personalized complimentary copy20 部送付先の選定</li> </ol>
7, 8 月	<p>オンライン委員会開催：2020年8月28日（金）15:00～16:00</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中村事務局長より事務連絡</li> <li>2. ILSI Korea 主催オンライン Meeting について</li> <li>3. 今年度日添協秋季講習会延期と来年度の講演について</li> <li>4. 国際協力委員会委員長の後任について</li> <li>5. その他（今後の活動に関して）</li> </ol>
9, 10 月	<p>オンライン会合を 9/24、10/28 に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ BeSeTo 会議（ソウル）が中止となったが、中村事務局長より ILSI 各支部（中国、韓国、台湾、SEA 及びインド）と調整し、オンラインでの代替会議開催（12/2 半日）が決定。会議に向けた最近の国内関連法規トピックスとプレゼン担当割について打合せを行った。</li> <li>・ 滑川委員が食品産業コーデックス対策委員会（9/15）に参加。情報共有があった。</li> </ul>
11, 12 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. BeSeTo 代替会議に向けた日本支部側の報告内容レビューを Web で実施（11/19）。</li> <li>2. 日本支部がホストとして BeSeTo 代替会議 Web で開催（12/2）。日本を含む全アジア 6 支部 80 名以上が参加。各支部より、COVID-19、法規改正及びリスク評価</li> </ol>

	<p>等に関する動向報告があった。時差を考慮し、午後 2 時から 4 時間の非常に内容の濃い会議であった。日本からは COVID-19 行政対応、食品添加物表示動向、ゲノム編集について報告した。</p>
--	---

## ILSI Japan 活動報告<2020>

### 食品機能性研究会

#### 【AI 栄養・機能性研究部会】

1, 2 月	
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	<p>ILSI Japan の新共同研究講座について、7月の理事会で承認され、「AI 栄養・機能性研究部会」の開設に向けた検討を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・説明会の開催 参加者の募集のための説明会を6回実施した（8月22日午前、午後、25日、9月1日、7日、15日）。 参加者は、ILSI 会員企業が27社47名、会員以外の企業様が28社43名であった。</li><li>・申し込み状況 10月末時点で、9社から参加企業の申込があった。 新たにILSI 会員となった企業は1社であった。</li><li>・開講オリエンテーション 新共同研究講座の開講に向けたオリエンテーションを10月5日に、WEBで開催し、9社25名が参加した。</li><li>・研究オリエンテーション 東北大学未来科学技術共同研究センター主催の「AI ディアトロフィ研究部門」（10月22日）、国立健康・栄養研究所主催の「AI 栄養機能プロジェクト」（10月23、30日）に、オリエンテーションを開催した。</li></ul>
11, 12 月	<p>AI 栄養・機能性研究部会の研究活動を開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・AI 栄養機能プロジェクト：研究実務担当者会議（11/13、12/11 Zoom）では、健康長寿AI（フレイル）及び和食を研究テーマ事例に選定し、各テーマのテーマリーダーを選出した。月例会議（11/27、12/25 Zoom）では、研究の方向性と会議の運営について議論をした。</li><li>・AI ディアトロフィ研究部門：研究会（11/26、12/22 Zoom）で、代謝経路のイジングモデルの基本設計のため、ビタミンCを題材にイジングモデル化の検討結果について東北大学より報告された。</li><li>・参加企業数：新たに1社の参加申し込みがあり、10社となった。</li><li>・募集活動：説明会に参加した企業に対し、メールで研究部会の近況の情報共有を行い、個別面談の希望があった2社とZoomで情報交換を行った（11/24、11/26）。新たに、本講座に問い合わせのあった1社とZoomで個別面談（12/23）を実施した。</li><li>・令和3年度の東北大学との共同研究申込書を締結した（12/25）。</li></ul>

## ILSI Japan 活動報告<2020>

### 情報委員会

#### 【情報委員会】

1, 2 月	<p>栄養学レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・28-2号 通巻107号 (2020年2月発刊予定) 編集会議 8/26 3報採択⇒年末までに監修原稿受領 ⇒12/25 再校 ⇒1/8 OUP 承認取得 ⇒2/10 発刊</li> <li>・28-3号 通巻108号 (2020年5月発刊予定) 編集会議 11/22 4報採択 ⇒4報とも翻訳者確定 (翻訳締切=1/31、監修締切=2/28) ⇒OUP 承認済み ⇒4報とも監修原稿受領⇒3/24 再校予定</li> <li>・28-4号 通巻109号 (2020年8月発刊予定) 編集会議 2/17 4報採択 ⇒4報とも翻訳者確定 (翻訳締切=4月末、監修締切=5月末)</li> <li>・次回編集会議 5/11 (月) 16時～ &lt;29-1号 通巻110号掲載論文選定 対象誌は NR78(2)-78(4)で、全て公開済み 78(3)まで抄録翻訳済み&gt;</li> </ul>
3, 4 月	<p>栄養学レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・28-3号 通巻108号 (2020年5月発刊予定) 編集会議 11/22 4報採択 ⇒4報とも翻訳者確定 (翻訳締切=1/31、監修締切=2/28) ⇒OUP 承認 ⇒4報とも監修原稿受領⇒4/6 再校⇒4/17 OUP 承認取得 ⇒4/18 入稿 ⇒5/12 見本予定</li> <li>・28-4号 通巻109号 (2020年8月発刊予定) 編集会議 2/17 4報採択 ⇒4報とも翻訳者確定 (翻訳締切=4月末、監修締切=5月末) ⇒4/24OUP 承認済 ⇒4報中3報翻訳原稿受領 3報監修依頼済み)</li> <li>・29-1号 通巻110号 (2020年11月発刊予定) 編集会議 5/11 (月) 16時～ Web 会議予定 (スケジュール: 翻訳締切=7月末、監修締切=8月末)</li> <li>・次回編集会議 5/11 (月) 16時～ Web 会議 &lt;29-1号 通巻110号掲載論文選定 対象誌: NR78(2)-78(4)&gt;</li> </ul>
5, 6 月	<p>栄養学レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●28-3号 通巻108号 (2020年5月発刊予定) 対象誌: NR77(8)-77(10) 編集会議 11/22 4報採択⇒OUP 承認 ⇒4/6 再校⇒4/17 OUP 日本語版承認取得 ⇒4/18 入稿 ⇒5/10 付発刊済み</li> <li>●28-4号 通巻109号 (2020年8月発刊予定) 対象誌: NR77(11)-78(1) 編集会議 2/17 4報採択⇒4報とも翻訳者確定⇒4/24 OUP 選択論文承認取得⇒4報とも翻訳原稿受領⇒4報とも5月末までに監修原稿受領⇒6/17 初稿⇒6/25 再校⇒翻訳者向け feed back 中 7/6 再校時打合せ予定 7/7 印刷入稿、7/14-21 頃色校正、平行して OUP 承認取得</li> </ul>

	<p>●29-1号 通巻110号 (2020年11月発刊予定)  対象誌：NR78(2)-78(4)  編集会議 5/11 5報採択⇒5報とも翻訳者確定 (翻訳依頼済み)  (スケジュール：翻訳締切=7月末、監修締切=8月末)</p> <p>●29-2号 通巻111号 (2021年2月発刊予定)  対象誌：NR78(5)-78(7)  対象英文誌は公開済み⇒抄録翻訳中</p> <p>●次回編集会議 8/11 (火) 16時～ (仮決定)  通巻111号 (2021年2月発刊予定) 掲載論文選定</p>																									
7, 8月	<p>●栄養学レビュー スケジュール (全体) (ヨ：予定)</p> <table border="1" data-bbox="367 660 1149 862"> <thead> <tr> <th></th> <th>編集会議</th> <th>翻訳締</th> <th>監修締</th> <th>発行</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・Vol.109 28-4</td> <td>2/17</td> <td>4/末</td> <td>5/末</td> <td>8/10 スミ</td> </tr> <tr> <td>・Vol.110 29-1</td> <td>5/11</td> <td>7/末</td> <td>8/末</td> <td>11/10 ヨ</td> </tr> <tr> <td>・Vol.111 29-2</td> <td>8/11</td> <td>10/末ヨ</td> <td>11/末ヨ</td> <td>2/10 ヨ</td> </tr> <tr> <td>・Vol.112 29-3</td> <td>11/13 ヨ</td> <td>1/末ヨ</td> <td>2/末ヨ</td> <td>5/10 ヨ</td> </tr> </tbody> </table> <p>●Vol.109 28-4&lt;2020年夏&gt;  対象誌：Nutrition Reviews 77(11)-78(1)  編集会議：2/17 4報採択 (OUP承認 4/24)  ⇒5月末までに監修原稿受領  ⇒6/17初稿⇒6/25再校⇒翻訳者 feed back⇒7/6再校時打合せ  ⇒7/8 OUP承認取得⇒7/11色校正了⇒8/10発行</p> <p>●Vol.110 29-1&lt;2020年秋&gt;  対象誌：Nutrition Reviews 78(2)-78(4)  編集会議：5/11 5報採択 (OUP承認 7/22)  ⇒8月末現在5報中3報監修原稿受領済み  ⇒3報加筆原稿提出済み</p> <p>●Vol.111 29-2&lt;2021年冬&gt;  対象誌：Nutrition Reviews 78(5)-78(7)  編集会議：8/11 5報採択 (8月末現在 OUP未承認)  ⇒5報とも翻訳者・監修者確定済み (翻訳依頼済み)</p> <p>●次回編集会議 11/13 (金) 16時～ (Web)  議題：通巻112号 (2021年5月発刊予定) 掲載論文選定  対象誌：Nutrition Reviews 78(8)-78(10)</p>		編集会議	翻訳締	監修締	発行	・Vol.109 28-4	2/17	4/末	5/末	8/10 スミ	・Vol.110 29-1	5/11	7/末	8/末	11/10 ヨ	・Vol.111 29-2	8/11	10/末ヨ	11/末ヨ	2/10 ヨ	・Vol.112 29-3	11/13 ヨ	1/末ヨ	2/末ヨ	5/10 ヨ
	編集会議	翻訳締	監修締	発行																						
・Vol.109 28-4	2/17	4/末	5/末	8/10 スミ																						
・Vol.110 29-1	5/11	7/末	8/末	11/10 ヨ																						
・Vol.111 29-2	8/11	10/末ヨ	11/末ヨ	2/10 ヨ																						
・Vol.112 29-3	11/13 ヨ	1/末ヨ	2/末ヨ	5/10 ヨ																						
9, 10月	<p>●栄養学レビュー 全体スケジュール [「ヨ」：予定]</p> <table border="1" data-bbox="367 1836 1149 2038"> <thead> <tr> <th></th> <th>編集会議</th> <th>翻訳締</th> <th>監修締</th> <th>発行</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・Vol.110 29-1</td> <td>5/11</td> <td>7/末</td> <td>8/末</td> <td>11/10</td> </tr> <tr> <td>・Vol.111 29-2</td> <td>8/11</td> <td>10/末</td> <td>11/末ヨ</td> <td>2/10 ヨ</td> </tr> <tr> <td>・Vol.112 29-3</td> <td>11/13 ヨ</td> <td>1/末ヨ</td> <td>2/末ヨ</td> <td>5/10 ヨ</td> </tr> <tr> <td>・Vol.113 29-4</td> <td>未定</td> <td>4/末ヨ</td> <td>5/末ヨ</td> <td>8/末ヨ</td> </tr> </tbody> </table>		編集会議	翻訳締	監修締	発行	・Vol.110 29-1	5/11	7/末	8/末	11/10	・Vol.111 29-2	8/11	10/末	11/末ヨ	2/10 ヨ	・Vol.112 29-3	11/13 ヨ	1/末ヨ	2/末ヨ	5/10 ヨ	・Vol.113 29-4	未定	4/末ヨ	5/末ヨ	8/末ヨ
	編集会議	翻訳締	監修締	発行																						
・Vol.110 29-1	5/11	7/末	8/末	11/10																						
・Vol.111 29-2	8/11	10/末	11/末ヨ	2/10 ヨ																						
・Vol.112 29-3	11/13 ヨ	1/末ヨ	2/末ヨ	5/10 ヨ																						
・Vol.113 29-4	未定	4/末ヨ	5/末ヨ	8/末ヨ																						

	<p>●Vol.110 29-1&lt;2020 年秋&gt;  対象誌 : Nutrition Reviews 78(2)-78(4)  編集会議 : 5/11 5 報採択 (OUP 承認 7/22)  ⇒9 月初旬 までに監修原稿受領  ⇒初校⇒再校⇒翻訳者 feed back ⇒10/6 再校時打合せ  ⇒10/20 色校正了⇒10/27 OUP 承認取得⇒11/10 発行</p> <p>●Vol.111 29-2&lt;2021 年冬&gt;  対象誌 : Nutrition Reviews 78(5)-78(7)  編集会議 : 8/11 5 報採択 (OUP 承認 10/28)  ⇒5 報とも翻訳原稿受領⇒監修依頼中 監修締切は 11/末</p> <p>●Vol.112 29-3&lt;2021 年春&gt;  対象誌 : Nutrition Reviews 78(8)-78(10)  対象誌は 3 号とも発行済み (対象論文数 : 17) 要旨翻訳済み  ⇒11/13 編集会議 掲載論文選考予定</p> <p>●次回編集会議 11/13 (金) 16 時～ (Web)  議題 : 通巻 112 号 (2021 年 5 月発刊予定) 掲載論文選定  対象誌 : Nutrition Reviews 78(8)-78(10)</p>																				
11, 12 月	<p>●栄養学レビュー 全体スケジュール [「ヨ」 : 予定]</p> <table border="1" data-bbox="367 1115 1212 1288"> <thead> <tr> <th></th> <th>編集会議</th> <th>翻訳締</th> <th>監修締</th> <th>発行</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ Vol.111 29-2</td> <td>8/11</td> <td>10/末</td> <td>11/末</td> <td>2/10 ヨ</td> </tr> <tr> <td>・ Vol.112 29-3</td> <td>11/13</td> <td>1/末ヨ</td> <td>2/末ヨ</td> <td>5/10 ヨ</td> </tr> <tr> <td>・ Vol.113 29-4</td> <td>2/12 ヨ</td> <td>4/末ヨ</td> <td>5/末ヨ</td> <td>8/10 ヨ</td> </tr> </tbody> </table> <p>●Vol.111 29-2&lt;2021 年冬&gt;  対象誌 : Nutrition Reviews 78(5)-78(7)  編集会議 : 8/11 5 報採択 (OUP 承認 10/28)  ⇒5 報とも翻訳原稿受領⇒監修依頼  ⇒12 月初旬 までに監修原稿受領  ⇒初校⇒再校⇒翻訳者 feed back ⇒1/6 再校時打合せ  ⇒OUP 印刷原稿承認申請中  以下予定 色校正・OUP 取得⇒2/10 発行</p> <p>●Vol.112 29-3&lt;2021 年春&gt;  対象誌 : Nutrition Reviews 78(8)-78(10)  ⇒11/13 編集会議 4 報採択 (OUP 未承認)  ⇒4 報とも翻訳者・監修者確定済み、翻訳進行中 (1 月末締切)</p> <p>●Vol.113 29-4&lt;2021 年夏&gt;  対象誌 : Nutrition Reviews 78(11)-79(1)  対象誌は 3 号とも発行済み (対象論文数 : 20、要旨翻訳進行中)</p>		編集会議	翻訳締	監修締	発行	・ Vol.111 29-2	8/11	10/末	11/末	2/10 ヨ	・ Vol.112 29-3	11/13	1/末ヨ	2/末ヨ	5/10 ヨ	・ Vol.113 29-4	2/12 ヨ	4/末ヨ	5/末ヨ	8/10 ヨ
	編集会議	翻訳締	監修締	発行																	
・ Vol.111 29-2	8/11	10/末	11/末	2/10 ヨ																	
・ Vol.112 29-3	11/13	1/末ヨ	2/末ヨ	5/10 ヨ																	
・ Vol.113 29-4	2/12 ヨ	4/末ヨ	5/末ヨ	8/10 ヨ																	



	⇒2/12 編集会議にて採択論文決定予定  ●次回編集会議 2/12 (金) 16時～ (Web) 議題：通巻 113 号 (2021 年 8 月発刊予定) 掲載論文選定 対象誌：Nutrition Reviews 78(11)-79(1)
--	--

**\* 編集部会**

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イルシー」141 号 発行</li> <li>・「イルシー」142 号 編集</li> <li>・「イルシー」143～144 号 原稿依頼検討</li> </ul>
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イルシー」141 号発行</li> <li>・「イルシー」142 号編集</li> </ul>
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イルシー」142 号発行</li> <li>・「イルシー」143 号、144 号編集</li> </ul>
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イルシー」143 号、144 号、145 号編集</li> </ul>
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イルシー」143 号発行</li> <li>・「イルシー」144 号、145 号編集</li> <li>・来年、創立 40 周年を迎えるにあたり、40 周年記念号を検討、記念ロゴを作成。</li> </ul>
11, 12 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イルシー」144 号発行</li> <li>・「イルシー」145 号編集</li> </ul>

## ILSI Japan 活動報告<2020>

### 事務局

#### 【ILSI Japan 総会】

1, 2 月	令和 2 年通常総会が 2 月 21 日（金）午前 10 時より日本橋公会堂にて開催された。 <b>決議事項</b> 第 1 号議案 2019 年度事業活動報告及び決算報告案 第 2 号議案 2020 年度事業活動計画及び収支予算案 が事務局より説明され 2 つの議案共に質問はなく、承認された。 <b>報告事項</b> 次期選任理事の紹介 本部総会報告 2 月 4 日の第 1 回理事会での報告と同様
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	
11, 12 月	

#### 【事務局】

1, 2 月	事務局次長 横山慶子氏が 1 月末で退職。
3, 4 月	3 月 3 日から 5 月 6 日まで在宅勤務とした。
5, 6 月	特になし。
7, 8 月	特になし。
9, 10 月	特になし。
11, 12 月	特になし。

#### 【理事会】

1, 2 月	第 1 回理事会が令和 2 年 2 月 4 日（火）に開催された。 <b>決議事項</b> （令和 2 年通常総会決議事項） 1. 2019 年事業活動報告及び決算報告書案承認の件 事務局が各研究会、研究部会ごとに事業活動の報告をし、決算の概要を資料に基づき説明した。 2. 2020 年事業活動報告及び収支予算書案承認の件 事務局が各研究会、研究部会ごとに事業活動の計画及び収支予算の概要を資料に基づき説明した。 1、2 双方とも異議なく承認された。 3. 改選及び新任理事の承認 事務局長より次期役員候補として 12 名の重任理事、2 名の重任監事、1 名の新任理事、2 名の退任理事の説明があり、異議なく選任された。 4. 寄付講座の公表 事務局長より、新寄付講座のテーマとして「国立健康・栄養研究所による AI 栄
--------	---

	<p>養学」、「東北大学 未来科学技術共同センター (NICHe) による AI ディアトロフィ」の 2 題を総会にて公開することを採決した。特に異議なく承認された。併せて、総会の午後に、これらの内容紹介をするための「先端技術シンポジウム」を開催する旨を報告した。</p> <p><b>承認事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理事会での事前審議、承認プロセスについて 事務局長から理事長承認事項案と理事会承認事項案を提案し承認された。</li> <li>2. 通常総会時シンポジウム案 事務局長から総会開催日の午後に「先端技術シンポジウム」と題して開催する内容を説明。特に異議なく承認された。</li> <li>3. 星薬科大学「次世代高付加価値食品開発プラットフォーム」 事務局長、理事長から配付資料に基づき説明し ILSI Japan として参画することが承認された。</li> </ol> <p><b>報告、討議事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2020 年本部総会報告 事務局長から本年 1 月 17 日から 21 日までコスタリカで開催された本部総会、サイエンスシンポジウムの概要を配付資料に基づき報告した。</li> <li>2. 2020 年 ILSI Japan スケジュール 事務局長より、本年の総会、理事会、シンポジウムの日程について報告した。</li> </ol>
3, 4 月	<p>第 3 回理事会が令和 2 年 4 月 21 日 (火) に開催された。</p> <p>&lt;承認事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) AAT プロジェクトの国際ワークショップとシンポジウム開催及び食品安全委員会の連携プロジェクトについて 事務局より資料に基づき説明し、承認された。</li> <li>2) バイオテクノロジー研究会 ERA ワークショップ「GM ダイズの隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティに関する知見」について 事務局より資料に基づき説明し、異議なくその開催案が承認された。</li> <li>3) 新研究講座の進め方 事務局より「新研究講座」の概要を説明。ILSI Japan の中に「(仮称) AI 栄養研究会」として新たな研究会を設置し、この研究会と「国立健康・栄養研究所による AI 栄養学」、「東北大学 未来科学技術共同センター (NICHe) による AI ディアトロフィ」の 2 つの研究機関と共同研究を実施する。参加企業は ILSI Japan AI 研究会に参加費を支払い、これらの研究機関と共同研究に参画する。また個別に研究機関と契約を結び企業固有の研究も可能にする。今後の進め方につき異議なく承認された。</li> </ol> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 食品リスク研究部会の新規活動 (翻訳、出版)</li> <li>2) 今後の理事会日程 (次回 7 月 14 日) 今後の新型コロナウイルス感染による外出自粛のため理事会を Web にて開催する可能性があることを説明した。</li> </ol>
5, 6 月	開催なし。
7, 8 月	<p>第 4 回理事会が令和 2 年 7 月 14 日 (火) に開催された。</p> <p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>新研究講座実施の承認</p>

	<p>事務局より資料に基づき説明し、質疑応答のあと異議なく承認された。</p> <p>&lt;承認事項&gt;</p> <p>1) Nutrition Reviews Supplement 出版について  昨年開催の「栄養とエイジング」国際会議の内容を Nutrition Reviews より出版する方法について事務局よりいくつかのオプションを提案し、Nutrition Reviews Supplement として一般の方が無料で閲覧可能な方法で出版し、製本はせずに関係各方面にはその閲覧先を丁寧に伝えることの案が承認された。</p> <p>2) 理事長承認済み案件  ア. 「食品開発展 2020」への後援  理事長承認事項として事務局より説明した。  イ. 寄付 10 万円「コロナ禍による小中学校休校時における家庭内の食事の変化に関する調査」  理事長承認事項として事務局より説明した。</p> <p>&lt;報告・討議事項&gt;</p> <p>1) AAT プロジェクトワークショップ延期について  事務局より新型コロナウイルス感染症下における開催可能性を検討した結果、来年に延期したと説明した。</p> <p>2) ILSI Japan 収支見込（新型コロナウイルス感染症による影響）  事務局より今期の収支見込について、感染症の影響を踏まえ説明した。</p> <p>3) 本部動向  事務局より「来年の本部総会動向」、「Webinar の紹介」について説明した。</p>
9, 10 月	<p>第 5 回理事会が令和 2 年 10 月 13 日（火）に開催された。</p> <p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>1. 理事退任と新任理事の選任  木村毅理事の退任と味の素（株）の児島宏之氏の選任が承認された。</p> <p>2. 2021 年度 ILSI Japan Assembly メンバー選任  アカデミア代表として宮澤陽夫会長が再任、産業代表として谷口茂理事の新任が承認された。</p> <p>3. 書類保管、破棄方針、内部通報方針施行の承認  上記方針の施行が承認された。</p> <p>&lt;報告、討議事項&gt;</p> <p>1. 新研究講座状況報告  7 月 28 日から 9 月 9 日まで協会、学会、関係各省、新聞、日経バイオテック web 記事にて広報活動を実施。説明会は会員向けに 3 回、非会員向けに 3 回実施。10 月 5 日に開講オリエンテーションを実施した。今後の予定を説明した。</p> <p>2. ILSI Japan 収支見込み及び 2021 年予算案  2020 年収支見込、21 年予算収支について ILSI Japan と CHP に分け説明した。CHP の今後の活動と進め方について提案し意見交換をした。</p> <p>3. ILSI Japan 創立 40 周年記念行事案  来年創立 40 周年を迎え 2 案を提案した。① 記念シンポジウムの開催。② 季刊イルシー誌への記念ロゴ掲載と記念シンポジウムレポートの掲載。</p> <p>4. 各研究部会活動報告  バイオテクノロジー研究会、栄養研究部会、食品微生物研究部会の活動状況と今後の予定を説明した。</p>

	<p>5. ILSI Global の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバルリサーチ提案 Global Assembly の東南アジア支部理事長より「Nutrition, Immunity, COVID-19 and Future Viral Epidemics」というテーマで ILSI Global 共通の大規模研究プロジェクトを遂行する提案があった。</li> <li>○情報発信 COVID-19 と栄養・運動・免疫といったテーマで、欧米、中南米、アジアでウェビナーによる情報発信（信頼ある科学情報の発信）を実施されている。</li> </ul>
11, 12 月	<p>第 6 回理事会が令和 2 年 12 月 18 日（金）に開催された。</p> <p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>2021 年収支予算案</p> <p>2020 年の収支見込みと 2021 年収支予算案の説明が事務局よりあり、承認された。</p> <p>&lt;報告、討議事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ILSI Japan 創立 40 周年記念行事案 記念シンポジウムの開催時期について、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮して、東京オリンピック終了後の年後半に開催する案に変更した。</li> <li>2. ゲノム編集 NPO 法人日本消費者連盟より食品企業に対してゲノム編集食品の取扱いに関する公開質問状が 11 月 12 日付で出された旨報告。</li> <li>3. 第 8 回「栄養とエイジング」国際会議講演録：Nutrition Reviews 発刊 2019 年 10 月開催の「栄養とエイジング」国際会議の講演録が Nutrition Reviews Supplement の「free to view」として 12 月 8 日に発刊され、当国際会議の関係者に紹介した。</li> <li>4. アジア会議 「BeSeTo 会議」の代替として日本が主催し 12 月 2 日に各国の法規制のアップデート、リスク事象の紹介について Web 会議を開催した。</li> <li>5. ILSI 本部動向アップデート <ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年 2 月の第 1 回 Assembly Meeting にて提案された議決案 5 項目のうち、「今後 10 年のビジョン、5-10 年の目的とゴール、1-3 年の戦略と評価を含む戦略的計画の立案」について、外部コンサルタントを採用して計画立案を遂行している。</li> <li>○上記戦略的計画の立案に関連して、ILSI Member Outreach Initiative を実施中。グローバルに ILSI 会員メンバー（産官学）にアプローチし、考えを聴取して ILSI の長期戦略の立案のためのインプットとする。</li> <li>○「栄養と免疫」という新型コロナに影響のあるテーマを挙げて ILSI Assembly の下、Research Working Group が取組むことになった。偶然にも ILSI Japan の「栄養研究部会」が同じテーマで清水理事のご協力を得て今年勉強会を計画している。</li> <li>○2021 年度本部理事の選任があり、新たに 3 年任期 3 名、2 年任期 1 名、1 年任期 1 名が交代し、その候補が提示された。アジア 5 支部の代表は前任の味の素（株）の木村氏から代わって、台湾の Jimmy Tsai 氏が候補として挙がっている。</li> </ul> </li> </ol>